

たまねぎレポート【359号】



平成29年9月26日

阪南青果株式会社

社 内 報

8月の天候は、沖縄・奄美では、気温がかなり高く、日照時間がかなり多かったです。北・東日本の太平洋側では、オホーツク海高気圧の影響で日照時間がかなり少なかった。東日本の日本海側では降水量がかなり多かったです。9月は、残暑が厳しく、17日には台風18号が南九州に上陸した後、高知、兵庫に再上陸して、日本列島を縦断し、大分県下に大きな爪痕を残した。

気象庁の10～12月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本と沖縄・奄美で平年並み亦は高い。降水量は、東・西日本の太平洋側で平年並み亦は少ない。月別予報は次の通り

10月、全国的に天気は数日の周期で変わる。東・西日本では、平年に比べ晴れの日が多い。北日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

11月、北日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側で

は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多い。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わり、期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

12月、北・東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雪亦は雨の日が多い。西日本の日本海側では、平年に比べ曇りや雨亦は雪の日が多い。北日本の太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ない。東・西日本の太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

8月の建値市場の野菜の入荷は、まちまちで、名古屋と大阪本場は前年並み、福岡、札幌は前年を下回った。主産地が日照不足や低温に見舞われ、生育・出荷が停滞したことで、平均単価は高安まちまちであった。市場別に入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比96%で、平均単価はkg ¥177前年比94%(前月比88%)。東京市場は前年比98%の入荷で、平均単価はkg ¥248で前年比106%(前月比110%)。名古屋市場は前年比100%の入荷で、平均単価はkg ¥229前年比100%(前月比108%)。大阪本場は前年比100%の入荷で、平均単価はkg ¥230で前年比99%(前月比107%)。福岡市場は前年比95%の入荷で、平均単価はkg ¥191で前年比100%(前月比119%)となっている。

玉葱は、府県(春穫り)産地の在庫増のほか、着荷した輸入物が荷動き停滞で在庫過多となっていたが、北海産の極早生の出荷が後ズレしたため、需給に大きな崩れはなく、値下がり幅は予想を下回った。入荷は市場毎にバラツキがあり、札幌、福岡市場以外は前年比増となったかが、全国的には府県産が大幅増で、北海産は大幅減であった。平均単価は、異常高であった前年同月

の半値に落ち込んだものの、前月比では札幌市場以外は概ね同水準を維持した。市場別の入荷量と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比81%、平均単価はkg¥71前年比53%(前月比77%)。東京市場の入荷は前年比108%、平均単価はkg¥88前年比52%(前月比94%)。名古屋市場は前年比119%の入荷で、平均単価はkg¥84前年比48%(前月比99%)。大阪本場は前年比112%の入荷で、平均単価はkg¥85前年比43%(前月比105%)。福岡市場は前年比93%の入荷で、平均単価はkg¥107前年比62%(前月比97%)となっている。

日本農業新聞社が独自集計した、全国主要7地区の代表荷受7社の、主要野菜14品目の8月の販売量は、90,752トン前年97%(前月比106%)、平均単価はkg¥136前年比94%(前月比112%)となっている。入荷が前年比増となっているのは、ダイコンが前年比17%増、ハクサイとサトイモが15%増など4品目。前年比減は、ピーマンが前年比27%減、ジャガイモが17%減、トマトが14%減など10品目。価格が前年比高となっている品目は、ピーマンが前年比50%高、キュウリが39%高、ハクサイが34%高など9品目。前年比安は、タマネギが前年比51%安、ニンジンが49%安、ダイコンが32%安など5品目となっている。

東京都中央卸売市場の8月の野菜の入荷は、125,300トン前年比98%(前月比100%)。平均単価はkg¥248前年比85%(前月比110%)であった。主要品目で入荷が前年比増となったのは、生シイタケが16%増、ハクサイが15%増、ニンジンが14%増など6品目。前年比減となったのは、トマトが12%減、ナス・キュウリが15%減、ホウレンソウが12%減など9品目。販売単価が前年比高であった品目は、ハクサイが前年比155%、キュウリが147%、ピーマンが145%など9品目。他方、前年比安であったのは、ニンジンが前年比49%、タマネギが52%、ダイコンが72%など6品目となっている。

東京都中央卸売市場の8月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	125,300	97.5	100.0	248	105.5	109.7
た ま ね ぎ	10,166	108.0	114.5	88	51.8	93.6
キ ャ ベ ツ	16,393	99.4	98.8	82	117.3	139.0
レ タ ス	10,160	99.5	103.0	168	115.8	152.7
だ い こ ん	9,414	109.0	105.9	84	71.6	110.5
ト マ ト	8,286	77.7	94.8	332	126.8	122.1
き ゆ う り	7,691	85.0	106.0	306	147.2	123.4
に ん じ ん	7,607	113.5	115.9	71	48.8	71.0
は く さ い	6,926	115.0	103.7	87	154.9	158.2
ば れ い し ょ	6,290	96.7	114.2	124	84.4	91.2
か ぼ ち ゃ	2,794	110.5	112.7	215	99.4	90.3
な が い も	867	86.2	92.8	492	115.1	100.8
れ ん こ ん	503	104.9	237.3	586	98.2	71.5
に ん に く	258	92.9	99.2	1,059	100.0	104.9

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の8月の玉葱の入荷量は、10,166トン前年比108%（前月比115%）で、順調であった。主力は兵庫・佐賀産から北海産に移行。北海産の入荷は4,834トン前年比89%、占有率は48%で前年比10ポイントダウン。兵庫産の入荷は2,776トン前年比138%、占有率は27%で前年比6ポイントアップ。佐賀産の入荷は1,373トン前年比14倍、占有率は14%で前年比13ポイントアップ。平均単価はkg ¥88前年比52%（前月比94%）で軟

調に推移した。産地別の平均単価は、北海産がkg ¥85前年比52%、兵庫産はkg ¥100前年比42%、佐賀産はkg ¥87前年比47%となっている

9月に入り、北海産の出荷が本格化したものの、荷動きが鈍く市場内には、北海物が滞貨し、府県物の売れ残りが散見され、荷凭れ感が強まった。北海物は産地の指値が高く、実勢価格とにかなりの差があり、沈滞傾向が強まった。市況安で入荷は一時的に減少傾向となったが、市場内は先安ムードが強まり、相場はざり貧状態となった。また、空知地区の銘柄に乾腐病による腐敗が見受けられ、先安ムードに品質不安が加わり、銘柄による価格差が広がった。此処に来て、北海道産地では収穫作業が一段落したことで、入荷は増加傾向にあるが、荷動き不振で在庫増となっている。在庫を一掃するには、成り行き販売止む無しの状況である。上旬の入荷は3,527トン前年比81%。平均単価はkg ¥80前年比56%。中旬の入荷は3,355トン前年比97%、平均単価はkg ¥77前年比61%。厳しい販売環境が続いている。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の8月の玉葱の入荷量は、4,075トン前年比119%（前月比100%）で、潤沢であった。主力は兵庫産から北海産に移行した。北海産の入荷は1,907トン前年比97%、占有率は47%で前年比11ポイントダウン。兵庫産は1,739トンの入荷で前年比163%、占有率は43%で前年比12ポイントアップ。愛知産は160トンの入荷で前年比76%、占有率は4%で2ポイントダウン。平均単価はkg ¥84前年比48%（前月比99%）、前月比では保合で推移した。産地別の平均単価は、北海産がkg ¥82前年比50%、兵庫産はkg ¥91前年比38%、愛知産はkg ¥78前年比120%となっている。

9月に入り、兵庫の即売物が終了したことで、北海物の独断場となり、小粒だった球流れもやや改善し、荷動きにやや回復の兆しが見られたものの、産地の指値が高く、転送屋の割安販売に対抗出来ず、商圈を侵されている。中旬の入荷は、安定化したものの、再度2L・L大が少なくなり、小粒のL、Mが主力で、買

参人の要望サイズに応じられず、仕切値と実勢価格の差額に悩まされ、拡販難の状態に追い込まれた。下旬の入荷はやや減少傾向となったものの、荷動きは回復せず、在庫増に悩まされている。転送屋からは割安品の販売打診があるが、会社の指示で受け付けていない。大手の仲卸筋では、転送屋から割安品の手当て買いで、荷受けからの買受量は減少傾向にある。荷受け各社は、産地直送品の販売は厳しい状況下にある。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の8月の玉葱の販売量は、3,288トン前年比112%（前月比94%）で、順調であった。主力は前月に続き兵庫（淡路）産で入荷は2,070トン前年比139%、占有率は63%で前年比12ポイントアップ。北海産は748トンの入荷で前年比58%、占有率は23%で前年比21ポイントダウン。愛媛物が145トンの入荷で前年はなし、占有率は4%。和歌山、長崎も前年比大幅増となった。平均単価はkg¥85前年比43%（前月比105%）で、盆需要と北海産の後ズレで月前半堅調、後半軟調の推移となった。産地別の平均単価は、淡路産はkg¥92前年比40%、北海産はkg¥78前年比46%、愛媛産はkg62となっている。

9月に入ってから、入荷は前年を下回っている。北海物が大幅減で兵庫（淡路）物が大幅増となっている。淡路物の即売は、5日頃から順次終了し、冷蔵物との平行販売となった。例年、即売物と冷蔵物とでは価格差が生じるが、今年の即売は、劣化が遅く品質良好で、同水準の販売が続いている。月半ばには冷蔵物70%、即売物30%の比率で、その後は冷蔵物主導の販売となっている。相場は、終始横這い状態であったが、此処に来て、引き合いが鈍く軟調な場面が続き、市場内の在庫が増えている。北海、淡路とも特にMが安い。月上旬の入荷は826トン前年比73%、平均単価はkg¥79前年比49%。中旬の入荷は1,057トン前年比91%、平均単価はkg¥75前年比59%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の8月の玉葱の販売量は、3,352トン前年比107%（前月比106%）で潤沢であった。引き続き佐賀産主力の販売で、佐賀産の入荷は1,167トン前年比364%、占有率は35%で前年比26ポイントアップ。北海産は742トンの入荷で前年比62%、占有率22%で前年比12ポイントダウン。長崎産は625トンの入荷で前年比117%、占有率は19%で前年比4ポイントアップ。平均単価はkg¥107前年比62%（前月比97%）で弱含みで推移した。産地別の平均単価は、佐賀産がkg¥111前年比67%、北海産がkg¥91前年比54%、長崎産がkg¥104前年比68%となっている。

9月に入り、販売量を抑えて相場維持の販売に努めた。転送屋の安値提案で厳しい販売環境となった。長崎、佐賀物は、給食筋向けの販売で、価格維持に努めた。北海物も指値に近い水準の販売に努めたが、転送屋の安値提案で厳しい販売環境となった。現在は、長崎物は日量2～3トンの入荷だが、品質良好で給食筋に評価され有利な販売を続けている。淡路物も品質良好で、こだわり筋の注文に応じている。北海物は潤沢な入荷に反し、荷動き不振で在庫が日々積み上がっている。周辺には転送屋の割安品が出回り、仕切り値と実勢相場との開きが大きくなり、在庫整理に頭を痛めている。上旬の入荷は、1,071トン前年比57%、平均単価はkg¥104前年比68%。中旬の入荷は、1,336トン前年比91%、平均単価はkg¥108前年比84%となっている。

9月25日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷 255トン、強保合

北 海 20kgDB2L¥1,700～1,150、L大¥1,700～1,000、L¥1,200～ 950、

〃 M¥800 ～ 600。

北 海 20kgNT2L¥950 ～ 900、L大¥950 ～ 900、L¥900 ～ 800、

〃 M¥350 ～

【太田市場】 入荷405トン、弱保合

北 海 20kgDB2L¥1,500～1,000、L大 ¥1,500～1,000、 L ¥900 ～ 700、
" M ¥600 ～ 500。

【名古屋北部】 入荷303トン、保合

北 海 20kgDB2L¥1,500～1,400、L大 ¥1,500～1,300、 L ¥1,200～1,000、
" M ¥1,000 ～ 800。

大阪本場】 入荷140 トン、弱い

北 海 20kgDB2L¥1,400～1,300、L大 ¥1,400～1,300、 L ¥1,000～ 900、
" M ¥800 ～ 600。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,200～1,000、 L ¥1,100～ 900、 M ¥700 ～ 600。

【福岡市場】 入荷135トン、弱保合

北 海 20kgDB2L¥1,500～1,300、L大 ¥1,500～1,300、 L ¥1,200～1,000、
" M ¥1,000～ 800。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,400～1,200、 L ¥1,400～1,200、 M ¥ 800～ 700。

長 崎 10kgDB2L ¥1,300～1,000、 L ¥1,200～1,000、 M ¥ 900～ 700。

供給(産地)の動き

府県産地の即売物は、9月半ばには一部を除き殆ど終了した。主力産地の淡路島では、9月中旬からは即売物と冷蔵物の平行出荷となった。佐賀は8月末までに中心産地の白石地区はほぼ終了し、9月は残品整理の出荷に終始した。主力産地は早めの終了となった。中小産地や新興産地は昨年夏高相場の夢が消えず、出荷は後ズレした。経験豊富な淡路や佐賀では、近年高温早魃時に多発傾向となるフザリウム菌による黒黴を懸念して、前進出荷をする生産者が多くなっている。今年の府県産地は、大産地の佐賀、淡路の出荷が前進化し、その他の中小産地は後ズレした。

北海産地では、極早生の作付が前年比30%以上の増反となったが、市況

の低迷から8月の早出し出荷は大幅に後ズレし、8月の出荷量は前年を大幅に下回った。9月の天候は好天続きで早生、中晩生の収穫は前進化し、平年に比べ1週間～3日程度早く終了した。作柄は総じて平年作は確保したものの、収穫が前倒しとなったことで収穫直前の球肥大が今一つであった。9月以降の出回り量は前年並みと予想され、年内厳しい販売環境が続くと思われる。ホクレンでは、通期の出回り量は前年比98%と予想している。

府県産地

佐賀産地では、出荷が前進化して、8月の盆明けから順次終了し、9月上旬には完了した。現在は、次シーズンの播種・育苗作業が始まっている。今年はいと病の被害は回避されたが、高温の乾燥時に発生する黒煤が散見されたことや、夏の安値市況で栽培意欲は今一つである。篤農家は『完熟収穫をして、収穫後圃場で天日干しをすることや、追肥を控え目にすると発病が少ない』と言う。収穫後に除湿乾燥処理をすることも、発生防除になるとされている。このような産地事情から年々中晩生系の作付が減少し、早生系の作付が増加する傾向にある。

中晩生の主力産地である淡路島でも、黒煤の発生を懸念して、冷蔵入庫や即売出荷は前進化傾向にあり、今年も即売物の出荷は9月上旬にはほぼ終了した。ただ、売れ行き不振のS、2Sには産地在庫がある。8月後半には貯蔵物の一部で黒煤の発生が見受けられたものの、定点貯蔵調査では、①ハウス乾燥貯蔵は、健全球率99.0%(過去10ヶ年平均90.8%)で最高値を記録。細菌性病害の発生球率は0.4%(過去10ヶ年平均値3.4%)で罹病率は最低であった。②吊り小屋乾燥貯蔵は、健全球率98.4%(過去10ヶ年平均値91.7%)で良好。細菌性病害の発生球率は0.4%(過去10ヶ年平均値3.6%)で良好であった。調査の結果通り、9月出荷もロスが少なく、品質のクレームは皆無である。今年の冷蔵入庫在庫は、9月8日現在22,000トン前年比157%で出荷は昨年よりやや遅れて9月上旬から始まっている。

北海道産地

作柄は、全道的に部分的な水焼け(湿害)があり、地域別、圃場別に多少の生育格差が見られたが、総じては平年作と見ている。9月前半の晴天続きで収穫作業が捗り、終了日は例年より1週間～3日程度早まり、9月中には完了する。昨年は、夏の異常高市況で、出荷は前進化したが、今年は安値市況で出荷は後ズレしている。特に極早生は格外品の発生率が高く、生産者は期待外れの収入減に頭を痛めている。10月から品種は早生系に続いて中晩生に移行し、球流れ、品質ともに向上することや、輸出商談が進行していることで、市況の回復を期待している。空知地区の乾腐病の被害も沈静化している。此の先、全道的に粗選別と倉入れ作業が始まり、倉入れ終了後は出荷の安定化と調整で、需給が改善されることを期待している。

外国産地

8月の輸入は速報値で、25,148トン前年比100%(前月比106%)で、意外に多かった。固定客の多い中国物の荷動きは順調だが、ニュージー物は荷動き鈍く、現在も6～7月に入荷した品物も倉庫で眠っている。国別の輸入量は、中国が24,899トン前年比109%。オーストラリヤが146トン前年比32%。ニュージーランドが77トン前年比34%となっている。

中国、主力産地は甘肅省である。韓国からの引き合いが強く、盆明けには値上がりしたが、現在は落ち着いている。現在の日本向け価格は、20kg・C&F・ムキ玉\$7.60～8.00である。

アメリカ、日本の市場は、北海物が荷余り状態で市況が低迷しており、アメリカ物に対する関心は薄く、情報収集も成約も途絶えている。日本向け産地では、収穫遅れで現地価格は意外に高い。現在の価格は、50kg・FOB・\$9.00の水準で、C&Fでは\$13.00前後になる。

10月の市況見通し

10月以降の市場は、北海物主導の販売となるが、需要家サイドでは、今年の玉葱は安値ムードが定着しているため、産地側が大幅な出荷抑制をする以外に早急な市況回復は望めない。産地の倉入れが始まる10月半ばには、市況は底値固めになり、その後は多少の回復が見込めるが、余剰ムードの改善が肝要となる。中心相場は前半は前月並み。後半は¥100～200の上昇。(了)